

長橋町研町聯合

聯合大賣出

御買上 圓一 福引券 呈上

桐タンス其他
景品山積

期間は
來月一日まで

舊曆十二月廿九日迄

御買物は
是非此好機に

●●●素敵●●●

田町陸會聯合福引

大賣出し

金壹圓御買上毎に抽籤券一枚進呈
一月廿五日より(舊十二月廿二日より)
二月三日まで(舊正月一月二日まで)
十日間

他の追従を許さざる福引景品!!
▲特等 最新式自轉車 ▲一等 上等桐箆筒 ▲二等 置時計 上等編上靴 ▲三等 キツコーマン醬油 ビゲ 夕醬油九升入一樽 ▲以下六等まで日用品山の如し
景品引換場 福住旅館

良品廉賣
福引景品付大賣出し
和洋金物類
平研町
宗像金物店
期日 一月廿四日ヨリ二月一日迄
舊十二月廿二日ヨリ廿九日迄

平町實費病院
平町郵便局裏(電話五五一番)

年末年始の贈答には
アルミニウム食器を
丁目(電話五百六十番)
關原商店

平町吉田眼科醫院

定評ある.....
期節向既製品は
富に取揃へ申候
目下格安品豊
の製品を召せ給

正札堂

羽子板と破魔弓

右御買上壹圓毎に四丁目聯合
の福引券進呈致します
當店の電話番号は銀行組合より配附
せる番號表に「七一三」とあるも
「七一三」の誤りに付御注意を乞ふ
各種提灯商 スガノヤ提灯店
平町四丁目電話七二二番



一月二十五日夕刊

定部金貳錢
一ヶ月卅錢
三ヶ月九錢
半年五錢
一年三錢
發行所 常盤毎日新聞社
電話六三〇番

日刊 發行兼編輯人 川崎文治
本社下町番地(電話六三〇番)
印刷所 常盤毎日印刷所

常盤毎日新聞
禪の公案
木村正三郎

茲に早い例を擧げて言へば、東京人が京都見物と思ひ立つたとき、例の「お江戸日本橋なつ立ち」といふ如く、先づ日本橋を出発点として、それから品川、川崎、神奈川、程ヶ谷、戸塚と来て一泊し、次々に五十三驛を經過し、途中山を越え川を渡り、十餘日を費し百三十里を突破して、漸く目的の京都に達します。誠に旅行としては組織的であり、具體的であり、實驗的でもあり、秩序的でもあり、

るが、何分にも勢力と時間を費すといふ缺點があります。それも五十三の各驛々を視察し、所々の地理・人情風俗を研究するといふ旅行であれば、無論それで宜しいが、單に京都に達するが目的であつたらば、別に便利な方法を取つて、汽車に曳かれ、自動車で走り、飛行機で飛ぶといふ方が有利ではありませぬか、禪は悟道に於ける一の飛行機で、徐々漸進の道を取らず、宛も鷹が鶴を攫む如く、一搏して釋迦の咽笛に喰らひつぐといふ活潑な學問でありますから、尋常の尺度には自ら合はぬ處があります。さて再び前の公案に戻つて申します。禪の修行は主として戒・定・慧の三學、其の他本分としての課業は数々ありまして、公案は貴重な寶典とはいへ、科外の讀本として禪僧の研究する唯一の参考書と謂つべきものであります。有名な碧巖集は支那の宋代の末に圓悟といふ名僧の撰集したものであります。此の書一たび出でてから、天下の禪僧が面白がつて公案にのみ没頭して自分の修行を忽に、徒らに葛藤を弄して口頭の禪に墮するやうな弊が生じたので、圓悟の法を嗣いだ大慧といふ和尚が深く之を慨して我が師の撰集した碧巖集の刻板を惜し氣もなく焼き棄てた事がありました。

各所の水道鉛管が凍結の爲めに破裂

復舊工事に忙殺さる

平町水道の専用栓使用者中水栓凍結し数日來一滴の水も出でず冷水不足に悩んでゐるものが多く廿四日正午までに凍結のため破裂したものの引込線鉛管五ヶ所水栓四十數栓に達し平町水道部では之等復舊工事やつけかへに忙殺されこんなとは水道布設以來はじめてだといひ驚いてゐる

未曾有の寒氣

平で零下九度二分大寒に入つてから平地方の氣温は俄に低下し小笠原測候所の觀測によれば廿日夜は零下七度六分廿三日夜は零下九度一分となり測候所創設以來十七年間かつてない寒さである

新川端の櫻

河川改修から移植に迫られ

平、飯野、内郷一町二ヶ村では水害の豫防を目的として先年水害豫防組合を設け縣費の補助を得古川新川の改修を計畫し上流の内郷村地内は完成したので明年度から平町地内新川の改修に着手する事となつたがこの改修についてもつと困つてゐるのは櫻樹の移植で日露の戦役に出征したが日

受檢米激增

平穀檢の統計

平穀物検査支所管内に於ける去る四月以降昨廿三日迄の生産米検査高は一萬百七十九俵と云ふレコード破りの数字に達してゐる之を前年度餘檢査高九千五百三十三俵に比較する時は既に六百四十八俵の増加をなしてゐる而して年度變りの四月迄には優に一萬一千俵を突破する者と觀測されてゐる

合併沙汰止み

養蠶組合

石城郡養蠶同業組合では郡農會に合併すべく評議員會にて決定したが總會においても議員多數が農林省においても近く蠶糸局設立されんとするまでに機運が進んでゐる、それに今更同業組合を解散するには組合員三分の二以上の同意を要し容易でないからむしろ存置するを可とする意見多く結局合併は沙汰止み

平町會開かる

平町

平町會は二十七日午前十時から開催左の件を議決すると

福運者便り

聯合大賣出し

二丁目 一等 桐箆筒、平町酒井重雄(郡内座蒲團五枚)上好間金成福正(琉球壘表井枝)平町黒木ハツ子(上等油一樽)平町三井ミネ(上等大柳行李)平町下和上等、同橋トヨ、下神谷金賀正彦(外套)舊城跡戸田彦太郎、好間村齊藤安治、毛メリアス)平町鈴木チヨ(三等久之濱町遠藤皆吉外廿三名)昨日分



リングゴのタルト

材料はメリケン粉二百五十グラム、バター二十五瓦、砂糖十五グラム、水一合位、焼鹽少々、林檎七個それと同量の中質砂糖メリケン粉

大瀧問題縣會速記集

(九)

井上氏の質問演説續き本縣の水利使用規則中の第十五條に「左の場合に於ては許可の全部若しくは一部を取消し又は工事の變更中止を命じ若しくは許可條件を變更又は増減することあるべし」とあるが、一、公益上必要ありと認むるとき、二、許可を受けたる者に於て法律命令又は本則及許可條件若しくは之に基きて爲したる處分に違背し

たるべき、而も縣の命令に従はざる時は此規則に依て取消も出来る筈であるが私には思ふ、公共團體を脅威すると云ふことは公益を害することにもなるのである、三、河川其他公有水面の状況の變更其他許可の後に起りたる事實に因り必要なりと認むるとき、水の基礎を十三個大瀧江筋に流置する必要があるのに十個の水を基礎として之を許可したと云ふことは水の基礎を偽つたものである、故に左様な場合には之を取消すことが出来る筈である、四、詐術に依り許可を受けたるとき若しくは許可に錯誤ありたると

き「斯う云ふこともある、總ての書類の基礎が詐術を用ひて居つたと云ふことも數々立證するに足るのであります、斯の如き不當なる行為が多かつたに拘らずそれに對しまして何等取消の手續をしない」と云ふことは私は甚だ此縣の威信にも關し行政の取扱上失當であると思へるのである、一面に於て水は自淨作用に依て飲めるものであるから悪い水であつても自淨すれば濾過すれば飲めるものであると云ふものがある、けれどもそれは一片の理窟でありまして知らぬ人の言ふことであ

る、勿論濾過すれば水は飲める併ながら自ら濾過の装置と云ふものを異にしなればならぬ、例へば福島市の水道と平の水道と郡山の水道とは濾過層と云ふものは同一でない、平の水道は瑠璃の如き清浄なる好間川の淨水であつて我國に於ても有名なる立派な水の一つである、併し福島の水道や郡山の水道は決して平町の水道のそれと比することは出来得ない、故に平町の濾過層と云ふものは四尺である、けれども郡山或は福島の濾過層はそれより一尺乃至五寸厚い筈である、さう云ふ風に濾過の層も改めて

教練の實感と希望

第四年次 關内 庄平

精神肉體共に練磨するに最適とする軍隊的の教練各個教練隊に教練に又は種々な興味のある陣中勤務等々、實にそれ等を正しく受け行ふことに於て吾等各自は言を待たず吾等の起つ世界は次第に淨化され明るい立派なものになつて来るのである、それを思つても吾等は益々勵まねばならぬ教練上の實感それはまごめてたゞ正しい愉快を感じることである、教練上の希望としては別段強いて望むこともない訓練生一同たゞ外的に内的にもつとよく整つた立派さになり度く思ふものである

糸澤橋竣工

二十六間の釣橋 石城郡田人村縣道地先鮫川に架する糸澤橋は工費一萬五千五百圓内縣補助九千六百七圓村費負擔(六千三百三十三圓)を以て工事中のところこの程竣工したので今二十五日縣土木課より係員出張竣工検査をなす筈であるが延長三十六間幅十尺石城郡内第一の釣橋である

平町人事

- ▲出生 平町七二 齊藤正之長女キミ子
- ▲死亡 平町八五 橋本次郎氏二男昭二
- ▲長橋町五一 中村次郎(六二)
- ▲仲町七二 齊藤タマ子(一三)
- ▲仲町一六 大關吉兵衛(二七)
- ▲白銀町三五 菅井ミヨシ(五三)